

トヨタ記念病院 病床機能区分変更について

当医療圏での医療需要は今後も増加が予想され、当院は地域の中核病院として、地域包括ケアシステムにおける高度急性期・急性期を担い、地域の医療機関等との連携をさらに強化していくために、トヨタ記念病院では平成 29 年に病床数拡大を申請し認可された。これに則り平成 30 年に 513 床から 527 床に増床し運用をしている。令和 5 年 5 月の新病院開院に伴い、地域の救急医療の継続と充実のために、救急車のお断りの原因となっていた GICU 病棟の不足を解消(4 床から 6 床に増床)し、急性期 2 床と高度急性期 2 床の病床機能を一部変更した。

【変更点】 GICU を 4 床から 6 床に増床加味した病床機能の変更

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計
変更前	190 床	337 床	0 床	0 床	527 床
変更後	192 床	335 床	0 床	0 床	527 床
増減	2 床増	2 床減	なし	なし	なし

【参考】 愛知県地域医療構想における当該構想区域の記載内容及び現状

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2025年 必要病床数	368 床	1,128 床	990 床	578 床	0 床	3,064 床
2023年 病床機能報告	435 床	1,444 床	427 床	638 床	8 床	2,952 床
過不足	67 床 過剰	316 床 過剰	563 床 不足	60 床 過剰	8 床 過剰	112 床 不足

当医療圏の 2023 年の病床機能報告では、高度急性期、急性期病棟は過剰となっているため、高度急性期と急性期の病床数の合計病床数は変更せずに、新病院開院後の機能強化(手術室の増設:8 室⇒11 室、麻酔科医師の増員、血管外科の新設)により手術後の集中管理の需要が大幅に増加することが見込まれるため、高度急性期を 2 床増加し、急性期を 2 床減らすこととした。

【2024年の予定】

2024 年の予定を以下の通り示す。回復期機能の不足につきましては引き続き検討が必要と考えている。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2025年 必要病床数	368 床	1,128 床	990 床	578 床	0 床	3,064 床
2024年 の予定	437 床	1,442 床	427 床	638 床	8 床	2,952 床
過不足	69 床 過剰	314 床 過剰	563 床 不足	60 床 過剰	8 床 過剰	112 床 不足